

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2016/4/1~2016/7/31)

資料 3-1

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	ヒトT細胞リンパ 親和性ウイルス 1型感染	Am J Trop Med Hyg. 94(2016)365-370	沖縄県の入院患者における糞線虫感染及びヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)感染に関するコホート研究について。沖縄県住民における糞線虫感染及びHTLV-1感染の罹患率は、過去24年間で減少した。HLV-1感染が肝臓がん並びに成人T細胞白血病/リンパ腫(ATLL)以外のリンパ腫の発症率を有意に上昇させることが明らかとなった。
2	インフルエンザ	J Virol. 89(2015)11213-11222	米国のブタにおいて新規再集合体ヒト由来H3N2およびH3N1インフルエンザA型ウイルスが検出された。このウイルスは感染力が強く、米国で流行するブタH3ウイルス株およびワクチン株とは抗原性が異なるとの報告。
3	インフルエンザ	proMED-mail 20150830.3612253	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスの報告。アイオワ州においてH1N1vのヒト感染例1例が報告された。この症例は発症の前週にブタとの密接な接触があったことが報告されている。
4	インフルエンザ	proMED-mail 20151222.3885143	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスの報告。ミネソタ州においてH1N1vのヒト感染例1例が報告された。この症例はブタの近くに在住、勤務していたが、直接的な接触はなかった。現時点でヒト-ヒト伝播は報告されていない。
5	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015- 2016 Influenza Season Week 13 ending April 2, 2016	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスの報告。ミシガン州においてH3N2vのヒト感染例1例が報告された。この症例は発症の前週にブタとの密接な接触があったことが報告されている。
6	インフルエンザ	CDC MMWR 65(2016)146-153	米国ニュージャージー州においてヒトのインフルエンザA型変異型ウイルスの感染例1例が報告された。本症例はブタとの直接的な接触はないが、発症前にブタのいる農場を訪れていた。
7	インフルエンザ	http://www.who.int/csr/don/3-may-2016-ah7n9-china/en/	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)の報告。2016年4月18日、中国におけるH7N9のヒト感染症の追加の検査確定例17例(うち死亡5例)がWHOに報告された。発症日は2月21日~3月20日に分布しており、症例の年齢は26~86歳であった。15例において、生きた家禽、食肉処理された家禽、または生きた家禽を扱う市場への曝露が報告された。報告された症例には、ヒト-ヒト感染が疑われる症例も含まれている。
8	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_14_Dec_2015.pdf?ua=1	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)の報告。中国において新たな検査確定例2例がWHOに報告され、両症例とも家禽への曝露が報告された。少なくとも死亡275例を含むH7N9ヒト感染の確定例683例が報告されている。
9	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/csr/don/19-january-2016-avian-influenza-china/en/	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)の報告。2016年1月11日、中国はH7N9のヒト感染症の追加の検査確定例10例(死亡3例を含む)をWHOに報告した。
10	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/inf_kuebza/human_animal_interface/2016_01_20_tableH5N1.pdf?ua=1	WHOに報告された鳥インフルエンザA(H5N7)のヒト確定症例累積数について。2003~2015年の症例数が報告され、中国において5例(死亡1例)が報告され、合計症例数は143例(死亡42例)が報告された。
11	口内炎	ProMED-mail 20150926.3671956	米国におけるウシの水疱性口内炎感染の報告。Wyoming州Riverton周辺の9ヶ所がウシの水疱性口内炎感染により隔離された。ウイルスはウシだけではなく、ウマ、ヒツジ、ヤギ、ブタ、ラマ、バイソン等にも感染した。
12	口内炎	ProMED-mail 20151010.3704735	米国における水疱性口内炎感染の報告。Colorado州で、ウマ、ラバおよびウシの群れにおける水疱性口内炎の検査で陽性の結果が得られ、14郡の42ヶ所が隔離されたことを、2015年10月8日にColorado Department of Agricultureが発表した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
13	日本脳炎B型	Nat Commun. 2016 Feb 23;7:10834. doi:10.1038/nocomms10832.	ブタにおける日本脳炎感染の報告。ブタにおける日本脳炎の伝播は蚊によって媒介される感染経路のみが知られているが、ブタからブタへの日本脳炎ウイルスの直接感染が示された。
14	腎症候性出血熱	Virology Jounal. 13(1) 16 Feb. 2016	2012年に中国雲南省において15種の動物からハンタウイルス検出を試みた結果、ハタネズミから新たなハンタウイルスが検出され、地名からFugongウイルスと命名された。
15	狂犬病	http://www.who.int/wer/2016/wer9102.pdf	2010～2014年に、アフガニスタンにおいて2000～3000症例、パキスタンにおいて2000～5000症例、中国において854例の狂犬病によるヒト死亡例が報告された。
16	狂犬病	proMED-mail 20160317.4098684	米国におけるウシの狂犬病の報告。Kansas州ではウシにおける狂犬病が増加しており、過去2年間に最も多く狂犬病と診断された家畜種はウシであった。ウシにおける症例は、2016年に13例、2015年に9例が確認されている。
17	灰白髄炎	https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/484689/Emerging_infections_summary_November_2015.pdf	2015年11月、野生型ポリオウイルス1型(WPV1)の新規症例9例が報告された。全例が流行国における症例であった(パキスタンにおいて5例、アフガニスタンにおいて4例)。ラオスでは循環型ワクチン由来ポリオウイルス1型症例が報告され、2015年の総数は5例に増加した。
18	灰白髄炎	http://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/492486/Emerging_infections_summary_December_2015.pdf	2015年12月、パキスタンとアフガニスタンにおいて、野生型ポリオウイルス1型(WPV1)の新規症例が計10例報告された。
19	灰白髄炎	http://www.who.int/csr/don/21-december-2012-polio-myanmar/en/	ミャンマーのNational IHR Focal Pointより、循環型ワクチン由来ポリオウイルス2型(VDPV2)の症例2例がWHOに報告された。ミャンマーにおいてVDPV2が循環していることが、2015年11月7日に検査により確認された。
20	灰白髄炎	http://www.who.int/wer/2015/wer9049.pdf?ua=1	急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランスの実績およびポリオの発生(2015年11月17日時点でWHO本部が受理したデータ)において、野生型ポリオウイルス1型(WPV1)症例は、アフガニスタンにおいて16例、パキスタンにおいて40例が報告された。循環型ワクチン由来ポリオウイルス2型(cVDPV2)症例はパキスタンにおいて2例が報告された。
21	灰白髄炎	http://www.who.int/mediacentre/news/statements/2016/8th-IHR-emergency-committee-polio/en//2016/03/01	2016年2月12日、ポリオウイルスの国際的拡大に関連し、International Health Regulations (IHR) のEmergency Committeeの第8回会議が開催された。野生型ポリオウイルスの国際的拡大の発生は全体的に減少しているものの継続しており、2015年10月と11月に発生したパキスタンからアフガニスタンへの新規輸出が2件報告されている。
22	灰白髄炎	MMWR. 65(2016)128-129	ワクチン由来ポリオウイルス感染のアウトブレイクについて。ギニア、ラオス、マダガスカル、ミャンマー、ウクライナにおいてワクチン由来ポリオウイルスアウトブレイクが確認されたとの報告。
23	フラビウイルス感染	Euro Surveill. 21(2016) doi:10.2807/1560-7917.ES.2016.21.10.30159	ジカウイルス流行国であるドミニカ共和国からイタリアに帰国した渡航者がジカ熱を発症した。ウイルスRNAは血漿中に発症後10日目まで検出され、唾液と尿からは血漿中よりも長い29日目まで認められた。
24	フラビウイルス感染	MMWR 65(2016)55-58	アメリカ大陸の19地域とプエルトリコにおけるジカウイルスの伝播拡散が全米保健機構に報告された。
25	フラビウイルス感染	N Engl J Med. 374(2016)951-958	ブラジルにてジカウイルス(ZIKV)に感染した妊婦が人工妊娠中絶を実施し、中絶後の胎児を剖検したところ、小頭症が認められ、RT-PCRと電子顕微鏡により胎児脳組織からZIKVが検出され、垂直感染が疑われた。
26	フラビウイルス感染	Reuters (2016年2月5日付)	ブラジルにおいて、唾液と尿からジカウイルスが検出されたとの報告。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
27	フラビウイルス感染	YAHOO! JAPAN ニュース (2016年2月6日付)	2016年2月5日、ブラジルのオズワルド・クルズ財団の研究所は、唾液と尿中にジカウイルスが存在することを世界で初めて確認したと発表した。唾液や尿でウイルスが実際に感染するかは更なる調査が必要との内容。
28	フラビウイルス感染	Transfusion. 56(2016)33-40	アモトサレンとUVA照射の組み合わせによる血液製剤の病原体不活化法は、血液製剤に混入したジカウイルスの不活化において、in vitroで有効であった。
29	フラビウイルス感染	http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM486360.pdf/2016/02/16	米FDAは、新規のジカウイルスのアウトブレイクに対する安全対策として、新たなガイダンス「業界向けガイダンス:ジカウイルスの輸血による伝播リスクを低減するためのドナースクリーニング、献血延期、および製品管理に関する勧告」を発行した。ジカウイルス伝播が活発ではない地域においては、感染リスクがあるドナー(過去4週間に感染を示唆する症状があった人など)に対する4週間の献血延期が勧告されている。
30	フラビウイルス感染	http://www.who.int/csr/resources/publications/zika/Safe-blood_supply18Feb2016.pdf?ua=1/2016/02	WHOは「ジカウイルスのアウトブレイク期間における安全で十分な血液供給の維持について一暫定的ガイダンス」を発行した。ジカウイルスの伝播が継続中の国における安全で十分な血液供給の維持、およびジカウイルスの伝播がない国における輸血サービスに関する対策などが示されている。ジカウイルス伝播がない国においては、流行地からの帰国後28日間は一時的に供血停止にする。また過去3ヶ月に感染した又は感染の可能性のある男性との性パートナーの供血停止を考慮すべきとしている。
31	フラビウイルス感染	www.cdc.gov/mmwr/volumes/65/wr/mm6505e1er.htm?s_cid=mm6505e1er.htm_w/2016/02/05	ジカウイルスの性感染予防に関する暫定的ガイドライン。ジカウイルスは性行為による伝播が可能であり、これは特に妊娠中に懸念される。ジカウイルス伝播地域に在住または渡航した男性とそのパートナーは性交渉に際して避妊を考慮するよう勧告している。
32	フラビウイルス感染	http://www.who.int/csr/don/12-february-2016-microcephaly-usa/en/	米国においてジカウイルスに感染した母親から乳児への感染が血清学的に確認され、妊娠中の母体から胎児への感染が疑われた。
33	フラビウイルス感染	reuters.com (2016年2月4日付)	ブラジルにおける2例のジカウイルスの輸血感染の報告。2015年3月にジカウイルスに感染した血液ドナーより輸血を受けた男性1例がジカウイルスに感染したことが遺伝子検査により確認された。また、2015年4月に、感染者からの輸血を受けた男性1例がジカウイルスに感染した。この男性の感染はおそらく輸血によるものと考えられているが、遺伝子検査による確認はまだ実施されていない。
34	フラビウイルス感染	AABB Weekly Report April 15, 2016	プエルトリコにおいて献血のジカウイルスの検査が開始されたとの報告。この検査はHIV、B型肝炎、C型肝炎、ウエストナイルウイルスのスクリーニングで既に実施されている検査と同様のプラットホームを使用している。
35	フラビウイルス感染	CDC MMER. 65(2016)395-399	2016年1月3日～3月5日、米国において、ジカウイルス感染の活発な地域へ旅行または移動したヒト4534例(うち妊婦3335例)に対しジカウイルス検査が実施され、ジカウイルス関連症状を1回以上出現した1541例のうち、182例(11.8%)でジカウイルス感染が確認された。無症候の2557例(うち妊婦2425例)のうち7例(0.3%)がジカウイルス感染と確認された。
36	フラビウイルス感染、デング熱	http://biorxiv.org/content/early/2016/04/25/050112/2016/04/25	デングウイルス(DENV)の抗体はジカウイルス(ZIKV)の感染力を増加させる可能性があるとの報告。in vitroにおいて、ヒト抗DENVモノクローナル抗体およびDENV免疫血清はZIKV感染を増強した。著者らは、既存のDENV免疫がZIKV感染を増強し、疾患を重症化させる可能性が示唆されると報告している。
37	ウイルス感染	HPS Weekly Report. 49(2015)	2015年11月25日に、European Centre for Disease Prevention and Control(ECDC)がジカウイルスのリスク評価を公表した。ブラジルにおける先天性小頭症の増加とジカウイルス感染症との関連性について生態学的なエビデンスしか存在しないものの、因果関係の可能性は除外できず、更なる調査と研究が必要であると結論付けられている。
38	ウイルス感染	MMWR 65(2016)159-160	ブラジルにおけるジカウイルス感染の報告。ブラジルにおいて小頭症の乳児の脳組織及び早期流産の胎盤組織からジカウイルスのRNAと抗原が検出され、ジカウイルスと胎児死亡および小頭症との関連が示されたとの報告。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
39	ウイルス感染	Disease Outbreak News. 7 March 2016	ジカウイルス感染とギラン・バレー症候群 (GBS) の関連性について。2013年10月～2014年4月、フランス領ポリネシアにおいて、ジカウイルスのアウトブレイクが発生し、疑い例8,750例が報告され、このうち383例が確定例であった。このアウトブレイク中に42例のGBSが報告され、4年間と比較して20倍の増加であった。GBS症例42例のうち41例がジカウイルス抗体を有していることが示された。
40	ウイルス感染	Health Protection Report. 10(2016)	米州におけるジカウイルス (ZIKV) のアウトブレイクが続いており、2014年2月～2016年1月、米州の18の国と地域においてZIKVの土着の循環が確認された。ZIKV感染症状のある患者におけるギラン・バレー症候群症例が報告されている。また、小頭症の増加とZIKVのアウトブレイクに関連性についてエビデンスが増加している。ZIKVは胎盤関門を通過すること明らかとなり、感染胎児や乳児の血液や組織においてウイルスが検出された。これらの症例のうち6例の母親は妊娠中にZIKV感染と一致する症状を示していた。
41	チクングニヤウイルス感染、デング熱、フラビウイルス感染	http://www.who.int/csr/don/8-february-2016-gbs-brazil/en/#/2016/02/08	2016年1月22日、ブラジルのナショナルIHRフォーカルポイントは、全国レベルでのギラン・バレー症候群 (GBS) の増加についてPAHO/WHOに通知した。病院のサーベイランスシステムによるデータによると、2015年1月～11月に国内全域でGBS症例1708例が登録されたことが明らかとなった。ブラジルの大部分の州において、ジカウイルス、チクングニヤウイルス、デングウイルスが伝播しているとした上で、GBS及び先天異常とジカウイルスとの因果関係は今後のケースコントロール研究の結果により明らかになる可能性があるとしている。
42	ウイルス感染	J Gen Virol. 96(2015)2994-2998	米国のブタ血清中より、新規と推定されるウイルスが同定され、暫定的に非定型ブタペスチウイルス (APPV) と命名された。
43	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 2016年3月25日	フランスにおけるBSEの報告。アウトブレイクの発生日は2016年3月1日。ウシにおいて疑い例394例、症例1例、処分例1例が報告された。感染源は不明もしくは結論に到達していない。
44	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20151201.3833109	カナダのAlbertaのウシ1例から採取されたサンプルにおいて、BSEが確認された。このウシは死亡以前の数日間に歩行困難であったことが報告されていた。ウシは2015年2月4日に屠殺され、2015年2月11日に組織サンプルの免疫ブロット検査にてBSE陽性が確認された。
45	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	proMED-mail 20160422.4175340	インドにおいて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病ヒト症例が報告された。
46	レンサ球菌感染	BMC Infect Dis. (2015)15:392	タイにおいて、ブタレンサ球菌血清型31型の初めてのヒト感染例が報告された。患者は肝硬変を患ったアルコール依存の男性で、敗血症にて入院した。発症前に自家製の生の豚肉製品を消費していた。
47	レンサ球菌感染	感染症学雑誌. 89(2015)741-744	国内における豚レンサ球菌 (血清型2型) によるトキシックショック様症候群の報告。養豚業の71歳男性においてStreptococcus suisが同定され、トキシックショック様症候群と診断された。
48	炭疽	ProMED-mail 20151222.3885257	カナダにおける炭疽の報告。2015年12月19日までの週に、Saskatoon南西のHarris行政区の農場のウシ1例において炭疽が確認された。同じ群れの他のウシ2例の死亡についても炭疽が疑われている。
49	ウシ結核	ProMED-mail 20160108.3919034	Michigan州のLower Peninsula北東部において、新たにウシ結核症例1例が検出された。Alpena Countyの食肉用の中型のウシの群れにおいて結核が認められた。本感染は、同州のDepartment of Agriculture and Rural DevelopmentおよびU.S. Department of Agricultureによる定期検査で発見された。
50	大腸菌感染	NHS choices Tuesday December 22 2015	中国において初めてプラスミド媒介性colistin耐性細菌のブタ感染症例およびヒト感染症例が確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
51	大腸菌感染	Lancet Infect Dis. 16(2016)161-168	中国の動物およびヒトからサンプリングしたE. coliにおいてプラスミド媒介性のコリスチン耐性遺伝子が確認された。
52	大腸菌感染	第90回日本感染症学会総会・学術講演会 (2016.4.15.16)	日本における新興ヒト下痢症起因菌Escherichia albertiiの家畜等からの感染リスク調査について。ウシ、ブタ、鶏(ブロイラー、地鶏)、野鳥の便を採取し、Escherichia albertiiのDNAを抽出し、性状解析を行った結果、ウシ1/105検体、ブタ12/100検体が陽性、鶏ではブロイラー1/200検体、地鶏26/80検体が陽性であり、ブタと地鶏での保菌率が高かった。陽性4検体から本菌を分離でき、すべての株が本菌の主要病原遺伝子であるeae遺伝子とcdt遺伝子を保有していた。
53	マイコバクテリア感染	Plast Reconstr Surg. 137(2016)97-105	イスラエルの医療機関において、インプラントによる乳房再建術後に新種のマイコバクテリア属菌(Mycobacterium jacuzzii)感染が確認された。
54	レジオネラ菌性肺炎	N Engl J Med. 374(2016)497-498	ポルトガルにおけるレジオネラ症の報告。2014年にポルトガル ビラ・フランカ・デ・シーラで発生した数百例のレジオネラ症集団発生において、レジオネラに罹患した成人男性(患者1)を看病した母親(患者2)がレジオネラに感染した。患者1はレジオネラに汚染された施設の作業員であり、患者2は流行地域への渡航歴はなかった。遺伝子分析により、患者1及び2からレジオネラ・ニューモフィラの同じ株が確認され、ヒトからヒトへの感染が疑われると報告されている。
55	バルトネラ症	http://wwwnc.cdc.gov/eid/article/22/3/15-0269_article	フランスにおいて慢性的な自覚症状を呈するダニ咬傷患者の血液培養により、他の動物種に関連するBartonella tribocorum、B.doshiae、B.schoenbuchensisが同定され、ヒトに対する新規病原性が示唆された。
56	ブルセラ症	ProMED-mail 20151122.3811521	米国におけるBrucella abortusの報告。Wyoming州 Park Countyのウシの群れの1例において、血液検査にて野生株Brucella abortusに対し陽性の結果が得られた。
57	野兎病	N Eng J Med. 374(2016)573-581	米国における野兎病の報告。米国マサチューセッツ州において、58歳女性患者における野兎病が確認された。患者は発症前の2ヶ月間、ニューイングランド沿岸の森の多い地域で生活しており、頻りに池や海を訪れていた。
58	ライム病	http://www.cdc.gov/medra/releases/2016/p0208-lyme-disease.html	米国において、ヒトにライム病を引き起こす新たな原因菌種が発見された。暫定的にBorrelia mayoniiと名付けられ、遺伝子検査によりBorrelia burgdorferiの近縁種であることが判明した。
59	細菌感染	Blood. 127(2016)496-502	米国において、血小板製剤の一部分割液を培養する積極的サーベイランスと医療機関から報告される輸血副作用を検討する受動的サーベイランスが7年間(2007~2013年)実施された。積極的サーベイランスにより、輸血された51,440本の血小板製剤のうち20本が細菌に汚染されていたことが判明したが、受動的サーベイランスによって報告された284例の副作用例に、これらの細菌汚染された血小板輸血を受けた患者は含まれていなかった。受動的サーベイランスによる敗血症反応の検出の限界を示しているのと報告。
60	感染	http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM273685.pdf	2016年5月付でFDAから「業界向けガイダンス:血液および血液成分の供血者スクリーニングに使用する容認可能な完全版および簡易版供血者履歴問診と附属資料の導入」が公表された。本ガイダンスは、FDAの要件と勧告を満たした血液および血液成分の供血者履歴情報の収集のための有効な方法として、2016年2月付で米国血液銀行協会(AABB)により作成された供血者履歴問診票(完全版および簡易版)および付随文書がFDAにより承認されたことを示している。